

# スポーツの裾野の拡大に向けて

## “魅せる”観点からのアクションプラン策定に向けた方向性の整理

### 1. 検討の大きな視点・方向性

- より多くの人にその魅力を伝え、スポーツに興味・関心を持たせることが、その第一歩。

#### 競技団体における課題例

- スポーツを広く周知したい、スポーツの持つ潜在力を認知してもらいたいという思いがある一方で、ICT分野で開発された新しい手段の採用も含め、その方法を検討する余裕がない。
  - 方法案がある場合でも、他分野における特定の相談・連携できる相手がいない。
- そのためには、特にICTを活用し、効果的かつ効率的な情報配信方法について、分野横断的に具体化・実現を目指すことが有効。
  - また、上記の取組みを継続し実行していくためや、その他具体的な利活用方法の検討等に向け、スポーツ関係団体とICT関係者などの人材・情報の交流の場づくりも重要。

### 2. アクションプランの方向性

#### ○ 効果的かつ効率的な情報配信方法の確立及びその実行

- ・個人の興味・関心を踏まえた情報配信や魅力あるコンテンツの配信を可能とすることで、スポーツに関心のある層を拡げるとともに、理解の深化を図る。
- ・上記の実行にあたり、スポーツ分野、ICT分野の人材が共同で推進できる体制を検討する。

# アクションプランの具体化に向けて(素々案)

## 公衆に対する効果的かつ効率的な情報配信の確立

### 0. ビジョン

- 2020年東京オリンピック・オリンピック競技大会を控えた昨今、スポーツに対する気運が高まる千載一遇のチャンス。
- この機会を捉え、今後のスポーツ業界の更なる成長を目指し、より多くの人にスポーツに対する興味・関心を持たせる方策を明確にし、これに積極的に取り組むことで、スポーツに関心のある層の拡大・深化を目指す。
- その際は、上記の取組の過程の中で、個人の興味の度合いなどに応じ、効率的・効果的にスポーツイベント情報も配信することで”見る側”から”する側”への移行を促し、スポーツ人口の拡大も狙う。

### 1. 目標

- 2016年中に、スポーツ分野における個人の趣味・嗜好に応じた情報配信について、その方法の検討を深め、具体的なスキームを確立する。
- 2016年中に、上記情報配信をはじめ、スポーツ業界にICTの導入を促すための体制を官民の連携により構築する。
- その後、2020年東京大会に向けたエンゲージメント活動としても資するよう、新たに構築した体制を中心として、効果的・効率的な情報発信をはじめとしたICTを活用した取組に順次取り組む。

### 2. 実現手段

- 1) 個人の趣味・嗜好を自動で把握するネットワーク技術の確立
- 2) 上記をもとに、スポーツデータ等を活用した魅力あるコンテンツ等の配信

### 3. 推進体制

以下の構成を中心とし、スポーツ分野だけでなく、他の分野も含め構成される一の団体。

- 1) コンテンツ提供者(特に国内競技団体)
- 2) 情報配信環境構築者(特にICTベンダー)